

## 「アフリカ開発会議（TICAD）の四半世紀を振り返る」 『アフリカレポート』掲載記事から――

岸真由美

今年八月、第六回アフリカ開発会議（TICAD VI）がケニアの首都ナイロビで開催される。TICADは一九九三年から五年に一度の間隔で開催されてきたが、今回は初めてアフリカで開催される会議となる。本稿では、六回目を迎えるTICADの四半世紀を振り返りながら、アジア経済研究所が発行するアフリカ専門誌『アフリカレポート』からTICAD関連の記事を紹介する。

第一回会議（TICAD I）が開催された一九九三年当時は、冷戦終結に伴う旧社会主義圏への援助の増加や、目に見える成果が出ない援助への倦怠感から、先進国の対アフリカ支援は消極的となっていた。アフリカ諸国のあいだで、アフリカが抱える問題が「周縁化」され国際社会の関心が薄れることへの危機感が広まるなか、国際社会のアフリカへの関心を喚起するため日本がイニシアチブをとって開催したのがTICADである。第一回会議ではオーナシップ（自効努力）と支援する国際社会のパートナーシップを理念とする「東京宣言」が採択され、一九九八年に開催された第二回会議（TICAD II）では、アフリカ開発の目的・目標および行動のガイドラインを定めた「東京行動計画」が採

択された。

第三回会議（TICAD III）は二〇〇三年に開催され、参加国はアフリカの元首二四名を含む八九カ国、四七国際機関に拡大し、二〇〇一年にアフリカ統一機構（OAU）の後継として発足したアフリカ連合（AU）の委員長も参加した。この会議では、アフリカ自身が策定した二〇〇一年のAU首脳会議で採択された「アフリカ開発のための新パートナーシップ」（NEPAD）への国際社会の支援が合意され、TICADの制度化と継続開催が決定した。

第四回会議（TICAD IV）は二〇〇八年に開催された。これに先立ちアフリカをとりまく経済情勢は大きく変化した。一九八〇年代以来低迷していたアフリカ経済が資源価格の高騰などを背景に二〇〇三年以降急に成長に転じた。新興国が新たな開発パートナーとしてアフリカに急接近し、中国アフリカ協力フォーラム（FOCAC）やインド・アフリカフォーラム首脳会議（IAFS）などが開催されるようになった。白戸圭一「TICADはアフリカでどう評価されているのか：政策当局者間の会談から考える」『アフリカレポート』四六号（二〇〇八年三月）は、参加したアフリカ諸国の関心が、従

来の援助頼みから援助と投資を組み合わせた経済開発にシフトしたと述べている。こうした情勢を反映し、第四回会議では「官民連携」が打ち出され、日本の支援策として「民間投資の倍増」が表明された。

二〇一三年の第五回会議（TICAD V）では、民間投資の重要性がさらに強調され、アフリカ首脳と日本の民間企業の代表が直接対話を行う初のセッションも設けられた。平野克己「援助から投資へ：TICAD Vをふりかえる」『アフリカレポート』五一号（二〇一三年）は援助から投資へ方針転換した第四回会議および第五回会議の背景、会議開催前後の状況を解説している。

TICADがFOCACやIAFSと比較対照されるようになるなか、望月克哉「TICADプロセスの現段階」『アフリカレポート』四六号（二〇〇八年三月）、および吉田栄一「アフリカ開発会議の成果と課題：第四回横浜会議を終えて」『アフリカレポート』四七号（二〇〇八年九月）は、アフリカ開発の理念を話し合う国際フォーラムとしてのTICADの位置付けや援助の手法を問い直す必要性に言及している。

今年八月開催の第六回会議（TICAD VI）については、六月にウエブ公開された白戸圭一「TICAD VIと日本の経済界」『アフリカレポート』五四号（二〇一六年）が、開発資金に対するアフリカ側と日本

経済界側の二ーズのズレを考察している。なおこの他にも数本の特集記事が今後『アフリカレポート』に掲載予定である。

最後に、前述以外のTICAD関連記事を紹介する。

- ・ 国分圭子「第二回アフリカ開発会議を振り返って」（小特集 TICAD II）『アフリカレポート』二八号（一九九九年三月）。
- ・ 尾関葉子「TICAD IIに期待されたもの」同右。
- ・ 平野克己「TICAD IIIとTICAD イニシアティブ」『アフリカレポート』三八号（二〇〇四年三月）。
- ・ 小峯茂嗣「TICAD IIIとNGOの参画」同右。
- ・ 平野克己「TICAD IVの焦点とは？」『アフリカレポート』四六号（二〇〇八年三月）。
- ・ 落合雄彦「TICADを超えて：日本のアフリカ外交のエクリチュールを考える」同右。
- ・ 望月克哉「開催都市・横浜の取り組み」TICAD開催地問題について考える」『アフリカレポート』五一号（二〇一三年）。
- ・ 白戸圭一「アフリカ開発」に象徴される新たなアフリカとの関係」同右。

（きし）まゆみ／アジア経済研究所  
図書館